

# 平成30年度 学校経営方針

さいたま市立木崎小学校長

## はじめに

本校は、今年で開校144年目を迎える歴史と伝統のある学校である。これまでも、本校を愛する学校関係者の方々の尽力によって、木崎らしい特色ある学校づくりが進められてきた。

私たち教職員は、この歴史と伝統を重く受け止めながら、結束力を高め、家庭・地域から信頼される学校づくりをさらに進めていかなければならない。昨年度の学校評価を踏まえた取組の重点に基づき、すべての教職員が一丸となって「チーム木崎」を組織し、充実した教育活動を実践する。

そのためには、子どもたちの学校生活の大部分を占める「授業」の充実が不可欠である。授業をとおして子どもたちを成長させることにこそ、私たち教職員の存在意義がある。このことを自覚し、子どもが目を輝かせて明日の授業を楽しみにする学校、教職員が協働する喜びを感じられる学校、保護者・地域の方々が子どもたちのために進んで教育活動に参加する学校を目指す。

## 1 学校教育目標と目指す児童像

### 自ら学び、心豊かでたくましい児童の育成

#### ・ すすんで考える子

確かな学力づくりと考える力の育成

…主体的に学ぶ姿勢、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力

#### ・ れいぎ正しい子

豊かな心と規範意識の育成

…明るくあいさつ、思いやる心、感動する心、協力する心、かかわり合い

#### ・ がんばる元気な子

心身ともに健康な子の育成

…運動に親しむ態度、体力向上、やりぬく力、基本的な生活習慣、安全な生活

## 2 目指す学校像

### 児童が目を輝かせて、明日の授業を楽しみにする学校

- ・ 確かな授業力を発揮できる学校
- ・ 子ども一人ひとりに居場所のある学校
- ・ 組織体として機動力のある学校
- ・ 地域に開かれ信頼される学校

### 3 教職員の基本姿勢

- ・教育公務員であるという自覚をもち、常に学び続ける教職員
- ・子どもを真に愛し、子どもの心に寄り添う教職員
- ・子どもともに学び、ともに伸びる誇り高き教職員
- ・「チーム木崎」の一員として協働する教職員

### 4 5つの努力事項

#### (1) 「おもしろい授業」への挑戦

- ①身に付けさせたい資質・能力の明確化
- ②アクティブラーニングの視点からの授業改善
- ③「学力・学習状況調査」や「よい授業4つの因子」の活用
- ④OJT (On the Job Training) を意識した研修による指導力向上

#### (2) あいさつと笑顔のふれ合い

- ①子どもウォッチングによる深い児童理解
- ②特別の教科・道徳の確実な実施
- ③「心のホットラインデー」を活用したきめ細かな対応
- ④生徒指導・教育相談体制の充実

#### (3) 健康的な生活習慣づくり

- ①運動に親しむための体育授業や体育的活動の充実
- ②「体力アップタイム」「保健の日」の活用
- ③基本的な生活習慣の確立に向けた取組の重視
- ④健康教育、食育の充実

#### (4) 安心・安全で豊かな教育環境の整備

- ①モクピカ清掃の徹底と美化環境の充実
- ②彩りある掲示の工夫
- ③生命尊重と安全教育の推進
- ④施設設備の安全点検の徹底と計画的な修繕

#### (5) 家庭、地域と連携した「共育」の推進

- ①学校関係団体との一層の連携強化
- ②学校情報の積極的な発信
- ③地域での学びを生かした活動の推進

### 5 本年度の取組の重点

#### <重点項目1> 「おもしろい授業」への挑戦

##### (1) 「おもしろい授業」への継続的な挑戦

- ①「木崎小授業力向上プラン」「よい授業4つの因子」に示された授業改善の視点と方法に沿って、自己評価やOJTを実施する。
- ②「授業を見せ合い議論する」職員室文化を醸成する。
- ③学校課題研究の成果の共有を図る。

④家庭学習と学校学習とが連続したものになるよう検討を進める。

## (2) 新教育課程への円滑な移行

①新たな指導計画のもとに実施する「特別の教科道徳」、「グローバル・スタディ」、「総合的な学習の時間」「特別活動」を確実に実施する

②学年、該当部会で、新教育課程の学習内容・方法について理解を深める。

③学習指導要領の内容を理解し深めるための研修を実施する。

## <重点項目2> あいさつと笑顔のふれあい

### (1) 不登校、いじめ、特別な支援を要する児童等への対応の充実

①さわやか相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールアシスタントとの一層の連携を図る。

②状況に応じて、躊躇なくケース会議を実施する。その際、特別支援教育ネットワーク等の専門機関との連携を図る。

③空き教室を「ほっとステーション」(仮称)とし、クールダウンや個別支援に活用する。

### (2) 「あいさつ勝負」「あいさつ運動」のさらなる充実

①校長による毎朝の「あいさつ勝負」を継続する。

②児童会やボランティア委員会の「あいさつ運動」をとおして、さらに意識を高める。

③家庭や地域を巻き込んだ「大人のあいさつ運動」の取組を実施する。

### (3) 学校生活のきまりの見直し

①みんなが安全で楽しい学校生活を送れるようにするための規則の在り方を検討する。

②子ども自身が考え、自ら納得して、集団の秩序を維持しようとする態度を育てる。

## <重点項目3> 健康的な生活習慣づくり

### (1) みんなが楽しい、みんなが活躍する体育授業づくり

①単元計画の見直しを図る。

②運動の特性を味わわせる学習過程や場の設定等を工夫する。

### (2) 安全に対する意識の向上

①インターナショナルセーフスクール(慈恩寺小)の実践を参考に、本校でも取り組めるものを探す。

②登下校の安全指導について、防犯ボランティア等とのさらなる連携を図る。

## <重点項目4> 安心・安全で豊かな教育環境の整備

### (1) ユニバーサルデザインによる学習環境の整備と指導方法の改善

①教室前面の目隠し用カーテンを順次設置する。

②教室の整理整頓、刺激量の調整、学習ルールの明確化、子ども同士の相互理解など、学習環境の整備を図る。

③見通しをもたせる、わかりやすく伝える、参加型の学習、授業内容の構造化など、指導方法の改善を図る。

### (2) 学びやすい環境のための整備と計画的な修繕

- ①教室扉のガラスの透明化を順次進める。
- ②古くなった掲示物を撤去し、必要なものを関係する部署で更新する。
- ③モクピカ清掃を進めるための十分な用具を整備する。
- ④施設・設備の異常に気付いたら、すぐに報告・連絡・確認できる体制を維持する。

#### <重点項目5> 家庭・地域と連携した「共育」の推進（学校情報の積極的な発信）

##### （1）読んでおもしろい「たより」の発行

- ①学校での児童の活動状況（行事の様子、子どもの作文や感想など）を積極的に知らせ、保護者の教育活動への関心を高める。
- ②各種たよりの内容やレイアウトを見直し、お知らせとお願いだけにならないようにする。
- ③「学級だより」の発行を推奨する（月に1回程度）。